

No.とプログラム名	No.29 海の森の大切さを伝えよう ～楽しい海藻おしば体験教室～
実施日・回数	8月8日（木）午前・午後 計2回実施
会場	【戸塚区】 とつか区民活動センター 会議室
参加児童数	41人
企業・団体等名	UMIMORI
参加の目的 (150文字程度)	海の中に森がある事や海の森の役割は普段あまり考えもしない人が多い。しかし地球環境や温暖化防止にとって、とても重要な役割をしている。一人でもたくさんの方に海洋環境保全についての普及啓発を行うため参加した。

■ プログラム内容

海の中にも森がある事をしり、海の森の役割を考える。

海の森と陸の森のつながりや地球温暖化防止。脱炭素について学ぶきっかけ作り

漂着海藻を使った海藻おしば作り。

海洋環境学習と海藻おしばづくり（工作）

海の環境を守るため自分に出来る事は？大人にやって欲しいことは？発表してみよう

■ 当日の流れ（カッコ内の時間は午後）

- | | | |
|-------------|---|---------------|
| 10：30～11：00 | 海の中にも森がある！海の森の大切さを知る | (13：30～14：00) |
| 11：00～11：30 | 神奈川県 of 浜辺に打ちあがった海藻を使い海藻おしば作り | (14：00～14：30) |
| 11：30～11：45 | 各グループのグループトーク
「海の森を守るために自分に出来る事やってみたい事。
大人にやって欲しいことを考えてみよう」 | (14：30～14：45) |
| 11：45～11：55 | 全体発表（各グループでどんな意見が出たか？聞いてみよう） | (14：45～14：55) |



海藻って食べたことある？
どんな海藻を食べたことある？
神奈川県・日本にはどれくらいの
種類の海藻があるだろう？



海藻おしば協会の映像教材を使用し、
海の森の大切さについて海中映像を
見ながら学ぶ



食物連鎖の振り返りをイラストで
解説、海の森のご飯は？
海の森と陸の森のつながりを振り
返り地球環境が壊れるとどうなる
のか？考える時間

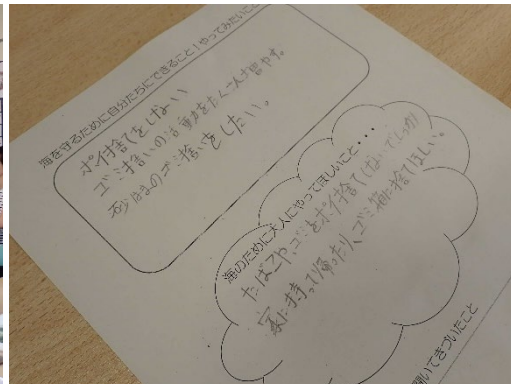
■ 児童の活動



神奈川県の高浜に打ちあがった海藻を使用し海藻おしばのポストカード作りを実施



グループワークで海の森のために自分が出来る事・やりたい事、海を守るために大人にやって欲しい事を各グループで発表しあった。



他のグループの意見も聞き、参加者全員で他のグループの意見はどうだったか？発表し情報交換を行った。

子ども
アドベンチャー
カレッジ
2024

■ 参加児童の様子や意見、感想など

横浜のいろいろな区から参加している。兄弟での参加もあったが、受付時にくじ引きでイルカ・サンゴ・ウミスズメ・クマノミチームに分かれ席順を決めた。時間早めに来た参加者が飽きないように、講師が水中で撮影したいろいろな生き物の画像を見ながら開始時間まで場をつないだ。海の不思議な生き物をみながら教室内で「海」を感じる事から導入し開始時間を待った。

レクチャーでは、質問すると手をあげて発表してくれる子が多かった。日本には、どれくらいの種類の海藻があるか？挙手制にすると500種類という回答が多かったが、約1500種類という正解を伝えると「え〜〜すごい！」と驚いていたり、映像教材をみながら「え？そんなに小さいの？」「キレイな海藻」「これも海藻なの？」と画面に向かって発言する子もいた。

神奈川県に打ちあがった海藻の中で緑色はみんなが住む横浜（海の公園）で拾った海藻だよ！と説明すると、緑ばかり使う子もいた。楽しい工作時間はあっという間に終わり、グループワークの時間をとった。

今日の話聞いて、海の森を守るために自分に出来る事、やってみたい事。海を守るために大人にやって欲しい事を記入する時間、発表する時間では、一生懸命考え記入していた。3〜4年生には難しかったかもしれないが5〜6年生は積極的に意見も発言していた。その姿をみて低学年でも頑張ってくれた子もいた。

大人にやって欲しい事…の部分では、スタッフ一同の学びにもなった。1週間に1度船で海のゴミを沖で回収して欲しい。車を使いすぎないで欲しい。工場の煙を減らして欲しい。一緒にゴミ拾いに参加して欲しいという内容もあったが、一番多いのは、タバコポイ捨てしないで欲しいという意見だった。（大人として、恥ずかしい事である。子どもたちの意見に学び見習いたい大人の姿はなんだろう？と振り返る事が出来た。）

自分に出来る事：ゴミ拾いに積極的に参加する。自然体験ができるワークショップに参加する。ポスターを書いてみんなに知らせる。夏休み後学校で皆に呼びかける。などたくさんの意見が書かれていた。

■ 企業・団体の気付きや感想など

「間違っているかもしれないけど・・・」と発表してくれる子もいたが、こたえは間違っていなかったため、良く発言してくれたことを賞賛し、間違っていないことを強調した。その後、なんでも発言していい！という雰囲気になり、他の子にも連鎖していった。雰囲気作りは学生サポーターを含めスタッフ全員が同じ姿勢で取り組んでいたのではないかと考える。今回のスタッフは、講座担当者と横浜市からの派遣学生サポーターのほかに、戸塚区の大学生インターンシップ、一般社会人ボランティアがいたが、初めて朝会メンバーにもかかわらず「子どもたちに楽しい学びを！」という共通認識で行動してくれたため、遅刻者などにも学びがあるよう対応できた。

今回はグループワークの時間を大切にしたため、感想などを記入したり聞いたりする時間はとれなかったが、挙手制で「楽しかった人?!」「参加してよかった人?!」と質問すると全員元気よく手をあげてくれた。初めての参加であり、申し込みなどの負荷はあったが、良い経験にはなったと考える。

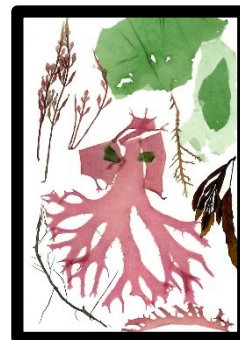
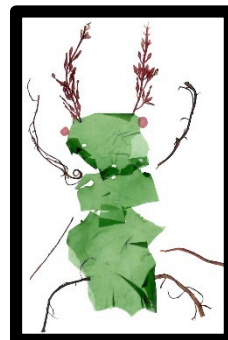
■ 学生サポーターの気付きや感想

事前の打ち合わせで、講座の内容を把握していただき、サポートしてもらいたい事や「楽しく学べるようにしたい」という共通目標を話し、学校での学びやこれまでの経験を活かして関わって欲しいことを伝えた。当日は、会場準備や運営など積極的にかかわってくれて「お手伝い」のつもりで受け入れたつもりであったが、講座を開催する一員として関わってくれ、発言してくれた意見を取り入れてプログラムを組み立てた。

学生サポーター本人からも、『「主体的で対話的な深い学び」を実践してもらうためにどのように関わるができるだろうかということを考えながら携わることができたように思います。海藻おしば教室では子どもたちの考え方・楽しみ方・学びの違いや多様な側面から環境問題を捉えること、自分も環境問題の当事者なんだという意識を早速持ち始めたことに子どもの成長力や活力を感じ、圧倒されました。本日、スタッフとして得た気づきや学びを今後、自身の活動にも参考にしたいと思います。』という感想をいただき、講師もスタッフも参加者も、それぞれ次への学びにつながる経験が出来たのではないかと考える。



子供たちの意見を引き出しながら関わるサポーター



参加者作品一部

当日作品は持ち帰りませんが、講師が乾燥作業を行いラミネートをして、切手をはり郵送した